

平成30年度 学校評価自己評価表 (中間・最終)

東広島市立西条小学校

学校教育目標	人間性豊かで 創造性に富み たくましく生きる子どもを育成する	<p>『両極の調和』 ～ 融合と軽重の選択 ～</p> <p>【めざす学校像】『独創教育』の理念を基に、工夫・追求・徹底・協働によって新たな価値を創造する学校 【めざす児童像】何事も自ら進んで「正しく 強く 優しく 永く」やろうとする子ども 【めざす教師像】笑顔を決やさず子どもに寄り添い、子どもの思いに共感する教職員</p>
--------	--------------------------------	---

中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目・指標	目標値	自己評価				学校関係者評価			改善方策	担当 分掌部	担当者		
					10月	2月	達成度	評価	結果と課題の分析 (○成果▲課題)	評価						
					達成値	達成値				適正	不適正				分からない	コメント
<b>確かな学力を高める</b> 【主体的な学び】自ら進んで学ぶことで、学ぶ楽しさを味わい、学力を高めていく児童の姿	「学びの変革」パイロット校としての研究成果を着実に実践する	・各教科等の見方・考え方を働かせる指導の工夫により、独創スピリッツ (課題発見力・追求力・評価力) を引き出す	・C R Tの達成度 (活用)	低75% 中70% 高70%	—	低77% 中70% 高68%	98%	B	○C R Tの結果から、各教科等の見方・考え方を働かせる指導の工夫により、児童の学力を高めることは概ねできたと考える。 ▲学年別、教科別に結果を見ると、算数科と理科に課題のある学年が多い。課題発見・解決学習での「学びの深化」や単元で身に付けた知識・技能を活用する学習の充実を図る必要がある。	○			・子ども達の学びのストーリーや手立てが工夫され、成果が出ている。 ・「深い学び」の追求をさらに求める。 ・「独創力」は、課題発見・追求・評価よりも、新たな価値の創造力という視点で評価を考えてほしい。	・本年度の授業実践の成果を生かして、各教科等の見方・考え方を働かせる指導の工夫を継続していく。 ・評価項目・指標や目標値を再検討する。 ・独創スピリッツの高まり(新しい価値を創造していく意欲や態度)の評価方法や評価基準を開発していく。 ・深い学びにかかわる授業実践を市内外に発信する。	教務部	森田
	「自学」を奨励し、進んで学ぶ意欲や態度を育てる	・「学びんピック」一人1チャレンジの実施	・「学びんピック」一人1チャレンジ自己満足度	95%	自己満足度 89%	自己満足度 95%	100%	A	○「学びんピック」一人1チャレンジの取組を通して、自学への意欲を高めるとともに、自学ノートの質を向上させることができた。 ▲友達の自学ノートからの学びを自分の自学の取組に生かした児童は75%と低く、前期の自学ノートの交流を生かしきれなかった。友達の自学ノートから学び、それを自分の自学に生かすよう、「学びんピック」の取り組み方を改善していく必要がある。	○			・子ども達に熱心に指導していただき、感謝している。 ・数値では表せない意欲を大切にしていることが素晴らしい。	・友達の自学ノートからの学びを自分の自学の取組に生かすよう、「学びんピック」の取り組み方を改善する。 ・児童が自ら進んで学ぶ楽しさを味わうよう、「学びんピック」に加え、「鐘なし日」の取組を充実させる。	菅	
<b>豊かな心を育てる</b> 【進んで行動し共に育つ】進んで協力し、助け合い認め合うことで、自分や友達の成長を実感する児童の姿	友達の良さに気付く、仲間を大切に育てる	・「友達のいいところ見つけ」の実施 ・読書・家庭読書の推進	・自分には良いところがある ・友達に薦めたい本がある	肯定的評価 95% 90%	肯定的評価 93% 80%	肯定的評価 96% 93%	101% 103%	A A	○年に2回「友達のいいところ見つけ」を行った。児童の実態に合わせた取り組みを行った事により、友達や自分の良さについて再発見することができ、高い自己肯定感をもつことができた。 ○国語科の言語活動で本を紹介する活動を行ったり、図書委員会や図書担当教諭を中心に読書に親しむ様々な取組を行ったりしたことにより、読書に親しむ児童が増えた。 ▲「我が子は家庭で読書をしている」と回答した保護者の割合は69.1%と低い結果であった。「親子読書」や図書だよりの取組を月1回行っているが、家庭での読書を推進する手立てを考える必要がある。	○			・自己肯定感と読書をつなげられたことが評価できる。 ・人の良さを見つけて読む児童はこれからも変わらず続けてほしい。子ども達も喜んで読んでいる。 ・相手意識が子ども達に育っている。	・学年の実態に合わせた「友達のいいところ見つけ」の取り組みを行うとともに、学校教育全体を通して全ての児童に自己存在感を与える場を設けていく。 ・校内の読書の推進に引き続き取り組むと共に、家庭読書の取組を強化していく。	生徒指導部	細川
	自ら進んで物事に取り組んだことを実感させる	・「三つの無言」の徹底 (移動・集合・掃除) ・自分からあいさつ	・「三つの無言」達成率 ・自分から西条あいさつする児童	自己評価率 95% 自己評価率 90%	自己評価率 93% 自己評価率 93%	自己評価率 96% 自己評価率 93%	101% 103%	A A	○「3つの無言」や「自分からあいさつ」を徹底できるよう、各委員会が児童のアイデアを生かした様々な活動を行った結果、児童の意識を高める事ができた。 ○「3つの無言」や「自分からあいさつ」について月別重点目標を定めて、教職員の意識を統一して取り組んだことで徹底させることができた。 ▲あいさつについて、自己評価結果は高いものの、家庭や地域、校内における来客や保護者へのあいさつは十分にできていないと言えない。「いつもあいさつをする」意識を高める必要がある。	○			・1000名を超える人数の中で、秩序を保つために必要なことだと思ふ。 ・無言移動・無言掃除をしていても、人に会ったら挨拶をしてもいいと思う。	・生徒指導月別重点目標をについて、教職員の意識を統一して取り組んでいくと共に、児童のアイデアを生かした委員会活動をさらに積極的にを行うことで、児童が主体的に取り組むようにしていく。 ・地域や来客、保護者に積極的にあいさつする児童を紹介するなど、「いつもあいさつをする」ことへの児童の意識を高める取組を行う。		
<b>たくましい体で鍛える</b> 【進んで鍛える】自ら設定した目標を達成する喜びを実感する児童の姿	休憩時間に思いきり外で遊ぶ子を育てる	・外遊びの奨励と意欲を引き出す場づくり	・外遊び児童数 ・新体力テスト (県との平均値比較)	定点観測平均 555人 上回り項目 2/3以上	定点観測平均 510人 上回り項目 75/108	定点観測平均 603人 上回り項目 75/108	118% 104%	A A	○外遊びを促すイベント企画の実施とクラスマッチに向けた練習により、外で遊ぶ児童が増加した。クラスマッチに向けた練習では、最大で800人以上の児童数を記録する日もあった。 ○新体力テストでは、108項目中75項目が県との平均値を上回る結果であった。また、各学年で課題が見られた項目について、それぞれの学年で体力向上の取組を行うことによる改善が見られた。 ▲新体力テストの結果で、男女ともに「走」に課題があること分かった。「走」に関する取組が必要である。	○			・体力は、知の基礎となる。体を大切にしていることがない。教師の指導力で、数値は変わる。 ・教職員の皆さんの頑張りに感謝している。 ・先生方が子ども達と一緒に遊ぶ、または見守っている姿が多く見られた。一緒に参加して下さり、ありがたい。	・走力向上のために、休憩時間や授業の最初などの時間で「走」に関する運動を行う。 ・外遊び児童数を増やすために、体育専科教員を中心とした授業改善を図り、児童が運動の特性に触れるようにしていく。 ・外遊びや授業中のけがを防ぐために、遊びの場や用具の管理を行うとともに、授業中のけが防止について月1回の定例会議で話し合う。	保健安全給食部	橋
	自ら進んで健康づくりに取り組む実践力を育てる	・日々の実践を認め励ましていく評価場面の設定と工夫	・続けて実践したことが言える児童	90%	89%	90%	101%	A	○「けんこうモリモリ大作戦」の取組を行うことにより、児童の健康づくりへの意識を高めることができた。 ○担任による肯定的評価により、児童が続けて健康づくりをする意欲につながった。 ▲取組期間中の当該項目達成率は90%だったが、期間外では75.5%だった。1年間を通して、健康づくりに取り組む実践力を育てるための新しい手立てが必要である。	○			・「けんこうモリモリ大作戦」の取組は、食べる・体を動かす・よく寝るの大切さが感じられ、良いと思う。 ・家庭への啓発も必要ではないか。	・継続的に健康づくりに取り組む児童を増やすために、家庭との連携を行う。健康づくりの啓発を学年通信に載せたり、家庭で健康づくりに取り組む機会を設けたりするなどの取組を行う。		
<b>その他</b> 【ふるさとを愛する】西条小・西条町に誇りと愛情をもつ児童の姿	生活科・総合的な学習の時間の、系統的な学びを推進する	・開発単位における体験活動の工夫・充実	児童アンケート ・学校大好き ・西条への愛着	「学校大好き」肯定的回答率 95% 「西条への愛着」肯定的回答率 95%	肯定的回答率 94% 肯定的回答率 89%	肯定的回答率 96% 肯定的回答率 97%	101% 102%	A A	○昨年度まで行ってきた生活科や総合的な学習の時間の体験活動を見直し、地域のことをより深く理解できる活動、より主体的に地域に働きかける活動を行った。また、体験活動後には、地域と自分たちのかかわりを自覚することができるような振り返りを行った。そのことにより、地域への愛着が増し、地域貢献に対する意識が高まった。 ▲「西条への愛着」は十分高まったといえるが、日常生活で地域の祭りや行事に積極的に参加している児童は多いとは言えない。(全国学テ 児童質問紙 61.3%) 今後も体験活動の工夫を行い、児童が様々な面から地域にかかわることができるようにし、自ら進んで地域貢献をする意識を高めていく必要がある。	○			・西条を敬愛する子ども達の気持ちが西条小をつくっているのだと思う。 ・西条に住んでない先生方も子ども達と一緒に学ぶ姿勢が見られ、良い。 ・地域創生に向けて、新たな価値を創造する学習を行ってほしい。 ・西条小(西条の町)のプラド・誇りを先生方にももっていただけような評価を工夫してほしい。	・生活科、総合的な学習の時間において、地域を知り、地域にかかわる体験活動の工夫を継続して行う。さらに、地域に対して児童が様々な方法で働きかけるような場を設定する。 ・体験活動後には、自己評価、相互評価等の評価活動を充実させることで、体験が児童にとって価値ある経験となるようにする。	研修部	森田

A・・・100≦(目標達成) B・・・80≦(ほぼ達成) C・・・60≦(もう少し) D・・・60>(できていない) 達成度=達成値/目標値